

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 22 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370325

研究課題名(和文) 『緋文字』にみるカトリシズム 17世紀の大西洋を貫くキリスト教と文化の諸相

研究課題名(英文) The Scarlet Letter and Catholicism

研究代表者

入子 文子 (IRIKO, Fumiko)

関西大学・東西学術研究所・非常勤研究員

研究者番号：80151695

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題「【緋文字】におけるカトリシズム」に沿って研究を続け、一定の成果に繋がった。17世紀前半の地殻を揺るがせた、ヨーロッパの激しい宗教運動の中にテクストを置き、図像学的手法も継続して用いながら、『緋文字』にみるカトリシズムとその文化の考察を深化させた。その結果は、2015年度日本英文学会招待発表「ディムズデイルを読み直す」を初め、各種学会や大学などでの特別講演、論文、プロシーディングスに実った。

研究成果の概要(英文)：In my study, I have attempted to place Hawthorne's story in the context of the severe turmoil of religious movement in the half of 17th century, and tried to deepen my own understanding of Catholicism and its culture as is found in The Scarlet Letter. As the result of this line of study, I have had the honor of being invited to read my paper "Rereading of Dimmesdale" in 2015 annual meeting of English Literary Society of Japan, followed by giving special lectures and essays in several academic meetings and journals.

研究分野：アメリカ文学、文化

キーワード：ナサニエル・ホーソーン 『緋文字』 カトリシズム 図像学 ディムズデイル

1. 研究開始当初の背景

(1) 「ピューリタン作家」と言われてきた19世紀アメリカのナサニエル・ホーソン(1804-64)のカトリックへの関心は、三宅卓雄氏の研究のように、作家晩年のイタリア体験をもとにした『大理石の牧神』(1860)を中心に展開され認知されてきた。最近では成田雅彦氏の『ホーソンと孤児の時代』(2012。ただし本研究申請時には未刊)のように、『緋文字』も俎上に上がってはきたが、その研究はなお不十分である。森から出てきた後の「ディムズデイルに起こった変身が何によって引き起こされたのかはわからない」(102)と言う成田氏自身の言葉が示唆する通り、この謎を解明した批評を申請者は寡聞にして知らない。登場人物の内面を探る場合、現代の批評の傾向は、作家の伝記的側面から精神分析的に論じる事が多い。しかし、17世紀を舞台にした宗教的な問題を扱う物語では、池上俊一氏説くところの中世ヨーロッパに起こった激しい宗教運動を背景に考察するとき、この問題は解決するのではないか。

(2) 同様に、ヘスターの進歩的自由思想と宗教的湯仰の漲るカトリック的言動は、厳格なピューリタニズムに統治されるマサチューセッツ湾植民地第一世代の社会に関する我々の先入観を混乱させ、まるで現代のフェミニズムに接しているかの錯覚に陥らせる。そのためか近年の国内外の研究では、17世紀前半の歴史的コンテキストの中ではなく、作家の生きた19世紀前半のニューイングランドの現実の中でこの作品を捉え、ヘスターの思想と言動をホーソンの時代錯誤とみなすに至っている。この傾向はジェニー・フランコットを嚆矢とする。フランコットによれば、ニューイングランドのカトリックは19世紀前半のアイルランド系移民の大量流入と共に増加の一途を辿り、プロテスタント系住民に宗教と雇用面の不安と憎悪を与え、社

会問題に発展し、1834年ボストン近郊の女子修道院焼き討ち事件を引き起こす。この事件の真相を暴くとの名目のもと神父と修道女の性的醜聞(後に虚偽の噂と判明)を物語にしたマリア・モンクやレベッカ・リードの<脱走修道女>の物語がベストセラーとなった。これに刺激された女流作家嫌いのホーソンが、『緋文字』のヘスターの造形を通して、19世紀に台頭してきた女権運動とカトリシズムを作品に注入したと言うのである。この主張は国内でもメイヤーや中山麻衣子氏に受け継がれ、2008年には丹羽隆昭氏が「社会に於ける女性の困難な立場への言及が行われるのは、それがこの物語の第一義的時空——17世紀ボストン——に即して適切と言うよりも、作家の頭の中では19世紀の社会運動家としてヘスターがイメージされたため」と考え、ヘスターの言説をホーソンの「アナクロニズム」と言い切る。これらの読みも多くを教えてくれるものの、しかし作品の要とも言えるヘスターの謎めいたカトリック的言動を通して、ホーソンは200年も大幅な時代錯誤を語らせているのではなく、中世ヨーロッパ以来の宗教運動と関連づけ、トランス・アトランティックに読み解けばその合理性が理解できることを示している。

2. 研究の目的

上記二つの側面の内、申請当初には(2)に重きを置いていたが、研究を進める内に、カトリシズムの孕む問題の重点は聖職者の側に置かれている事に気づき、視点がディムズデイルにシフトした。この10年、ホーソンとカトリシズムの問題を追う中で、ホーソンの作品が如何に作品の背景をなしている時代に対応した読書体験に基づいているかに確信を抱いた。そこで作家の伝記や精神分析ではなく、作品の置かれた時代のカトリシズムを元にテキストを分析することを目的とした。

3. 研究の方法

『緋文字』の舞台となっている 1640 年代の、英米及びヨーロッパの宗教運動をファレリーやバンガートなどで研究し、特にピューリタンとカトリックの教義とそれに基づく実際の慣習、典礼のあり方の相違などを、現在だけではなく古い時代の書物からも学んだ。かつ、日本は勿論、巡礼旅行に参加してヨーロッパ各地で実際にミサに預かり、教会内の配置、蠟燭、聖杯、祭壇、説教壇、所作、聖体の意義などを比較した。オクスフォードではカトリックに極めて近い現在の英国国教会の儀式にも参加したが、古い時代の事は質問してもわからなかったため、ホーソーンのノートブック、彼が目にしたであろう資料を漁った。しかし、第二バチカン公会議後のカトリックは 17 世紀のカトリックとはかなり変化した部分があり、最終的には文献に頼るほかない。その際ピンポイントに於ける第一次資料が入手しがたい点が問題である。

4. 研究成果

(1) 2015 年度日本英文学会招待発表「ディムズデイルを読み直す」では、従来批評家泣かせであった『緋文字』第 12 章の幾つかの謎めいた光の分析を試みた。まず、1640 年前後の英米における、英国国教会とニューイングランドのピューリタンを巡る宗教的背景に着目する。ディムズデイル牧師がオクスフォードで天才として名を馳せていたことからカトリックに限りなく近いロード大主教のもとでカトリック的なキリスト教に慣れ親しんでいたとの仮説に立ち、テキストに、カトリック的な苦行、聖務日課、典礼を読み取り、布教のためにカトリックが用いたエンブレムを補助線として用いた。17 世紀のその情報をホーソーンがいかに入手したかを、彼の『英国ノート』の記述と彼の参照したであろう 19 世紀当時の雑誌記事から導き出した。文字資料のみならず図像資料をも用いた。

(2) ホーソーンの『緋文字』テキスト理解には、17 世紀の対抗宗教改革で布教のためにカトリック側が好んで用いたエンブレムの伝統の把握が必要である。ホーソーンのテキスト全体に頻出する「ハート」が、「心」という目に見えない抽象概念と、「心臓」という目に見える具象としての意味を同時に持つことが多いことを、図像と聖書を用いて 2014 年度の学会で講演し、2016 年度『英文学研究』支部統合号特別寄稿論文として「ホーソーンと〈Heart〉の図像学」として発表した。

(3) 2016 年 12 月の学会発表「Dimmesdale の隠されたモデル」と、それを発展させた 2017 年 1 月の慶應義塾大学での講演「ホーソーン『緋文字』研究の新展開——バーコヴィッチを超えて」をもとにした論文、2017 年 2 月「ディムズデイルの人物造形にインスピレーションを与えたもの」『ホーソーン研究』4 は、オクスフォード出のディムズデイルのモデルがジョン・ヘンリー・ニューマンであるという主張である。オクスフォードの若き天才牧師ディムズデイルの説教がカトリックに改宗したオクスフォードの若き天才ニューマンのそれに酷似していることに注目した。

< 引用文献 >

Farrelly, Maura Jane. *Papist Patriots*. Oxford UP, 2012.

Franchot, Jenny. *Roads to Rome*. U of California P, 1994.

Mayer, D.R. “Nathaniel Hawthorne, Escaped Nuns, and Mother Alphonsa.” 『フォーラム』5 日本ナサニエル・ホーソーン協会 1999.

池上俊一 『ヨーロッパ中世の宗教運動』 名大出版会 2007.

中山麻衣子「『脱走修道女』たちの証言」
『アメリカ文学研究』40(2003)。

成田雅彦『ホーソンと孤児の時代』ミ
ネルヴァ書房 2012. 105-06。

丹羽隆昭「ホーソンと民主主義」『ア
メリカ民主主義の過去と現在』紀平英作編
(2008)。

バンガート、ウィリアム 『イエズス会
の歴史』原書房 2004。

三宅卓雄「カトリシズムとホーソン」
『大理石の牧神』解説(二) 国書刊行会
1984。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

入子文子、「ディムズデイルの人物造形に
インスピレーションを与えたもの」、『ホ
ーソン研究』、査読有、4号、2017、1-17。

入子文子、「ホーソンと Heart の図像
学」、『英文学研究 支部統合号』、査読有、
8巻、2016、49-56。

入子文子、「“The Great Stone Face”か
らのメッセージ <詩人>を考える」
、『ホーソン研究』、査読有、2号、2015、
12-29。

入子文子、「Dimmesdale を読み直す
The Scarlet Letter 第12章を中心に」
、『日本英文学会第87回大会
Proceedings』、査読有、2015、17-18。

入子文子、「“The White Old Maid”を読
む」、『ホーソン研究』、査読有、創刊号、
2014、109-17。

入子文子、「ホーソンとアジア(1)」
、『関西大学東西学術研究所紀要』、査読無、
47号、2014、245-59。

〔学会発表〕(計7件)

入子文子、「ホーソン『緋文字』研究の
新展開 パーコヴィッチを超えて」慶
應義塾大学芸文学会(招待講演) 2017
年1月17日、慶應義塾大学三田キャン

パス(東京都)

入子文子、「Dimmesdale の隠されたモ
デル」日本ナサニエル・ホーソン協会
関西支部例会、2016年12月24日、関
西学院大学梅田サテライト(大阪府)。

入子文子、「橋本安央招待講演『ホーソ
ンと彼の苔』」コメンテーター、日本ナサ
ニエル・ホーソン協会関西支部例会、
2015年12月26日、関西外国語大学(大
阪府)。

入子文子、「ホーソンの星と手袋——『緋
文字』第12章を読む」日本ナサニエル・
ホーソン協会九州支部例会(招待講演) 2015
年12月5日、福岡大学(福岡県)。

入子文子、「Dimmesdale を読み直す
The Scarlet Letter 第12章を中心に」
日本英文学会全国大会(招待発表) 2015
年5月23日、立正大学(東京都)。

入子文子、「“The Great Stone Face”から
のメッセージ」京都大学人間総合学部公
開講座(招待講演) 2014年10月31日、
京都大学(京都府)。

入子文子、「ホーソンと Heart の図像
学」日本アメリカ文学会関西支部総会
(招待講演) 2014年5月10日、同志社
大学(京都府)。

〔図書〕(計4件)

入子文子編、『ホーソン研究』創刊号、
ホーソン研究会、2014年1月、117。

入子文子編、『ホーソン研究』第2号、
ホーソン研究会、2015年1月、64。

入子文子編、『ホーソン研究』第3号、
ホーソン研究会、2016年1月、63。

入子文子編、『ホーソン研究』第4号、
ホーソン研究会、2017年1月、53。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

入子 文子 (IRIKO, Fumiko)

関西大学・東西学術研究所・非常勤研究員
研究者番号：80151695